

小学校第4学年 体育科学習指導案

単元名：「KUMANO2020 KUMALYMPIC～種目別跳び箱 男女～」(跳び箱運動)

指導者 熊野町立熊野第一小学校 阿藤波 善明

- 1 日 時 令和2年12月4日(金) 5校時
- 2 場 所 熊野第一小学校 体育館
- 3 学年・学級 第4学年1組(33名 男子21名 女子12名)



単元について

本単元は、小学校学習指導要領体育科第3学年及び第4学年、「B器械運動」の内容「ウ 跳び箱運動」を受けて設定している。中学年の器械運動「跳び箱運動」は、切り返し系や回転系の基本的な技な挑戦し、その技ができる楽しさや喜びに触れることのできる運動である。

小学校学習指導要領 体育編では、「中学年では、器械運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きや技を身に付けるようにし、高学年の器械運動の学習につなげていくことが求められる。」と述べられている。運動を楽しく行うためには、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、きまりを守り、誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることが大切である。

本単元の学習を通して、運動に進んで取り組み、きまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることのできる児童を育成したい。

児童の実態

本学級の児童は、意欲的に学習に臨むことができ、自己の課題に対して前向きに捉え、解決に向けて行動できる児童が多い。2学期に行ったマット運動でも、失敗を恐れず、自分の課題に向き合い、挑戦し続けることができた児童が多かった。また、技の成功につながる視点を絞ったアドバイスや、グループ内での練習の見合いなど、児童相互の交流の場を設けた。児童同士での技の見合い、教え合いを通して、技の向上を図ることができた。体を丸めながら(後頭部-背中-尻-足裏の順にマットに接して)前方に回転して立ち上がる前転のできている児童が17人から23人(51.5%→69.7%)になり、しゃがんだ姿勢から体を丸めながら(尻-背中-後頭部-足裏の順にマットに接して)腰を上げながら後方に回転し、両手で押して立ち上がる後転のできている児童が17人から25人(51.5%→75.8%)になった。

しかし、自己の課題が何であるかを見極め、その解決にどのような練習や方策が効果的か、等、課題解決のための方策等について自己分析できる児童は少ない。

事前に、跳び箱のプレテストを行うと、開脚跳びのできる児童が、16名(48%)、両足で踏み切ることのできない児童が6名(18%)、勢いがつかなくなかったり、着手の位置が合わずに飛び越せなかったりした児童が5名(15%)であった。

単元の指導

単元の指導に当たっては、「①技のポイントを絞る」「②児童の相互交流」「③課題の設定・解決」の3つのことを意識して、本学級の児童の課題に即して、基本的な技を習得させたい。

その為に、1つ目は、技のポイントを明示したカードを活用し、こつを絞って児童に提示する。どの児童にも、ICT機器や絵図等、視覚的な支援を用意することで、児童が具体的に着手や腰の高さ、頭などの動きをアドバイスできるようにしたい。児童一人一人が、それぞれ技の成功に必要なポイントを審査員

としての視点で理解することで、自らの課題に気付くとともに、技のできていない友達に具体的なアドバイスができるようにしたい。

2つ目はアドバイザーとして児童相互の評価を取り入れる。グループ、自己の課題の解決に必要な段階的な練習の場を選べるように設定する。児童がアドバイザーになることで、児童相互の意見交流を活発にし、技能面で苦手と感じている児童も「みる・支える」立場でも活躍できるように指導していきたい。また、3つ目は、自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるように協働的な学びの場を設定する。

単元の目標と評価規準

【単元の目標】

- 1 繰り返し系や回転系の基本的な技に取り組み、自分の課題に合った技ができる。（知識及び技能）
- 2 自分の能力に合った課題をもち、技ができるようになるための練習方法や場を選んだり、友達に助言したりすることができる。（思考力・判断力・表現力）
- 3 運動に進んで取り組み、きまりを守って運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

【評価規準】

1 知識・技能	2 思考・判断・表現	3 主体的に学習に取り組む態度
①自分の力に合った繰り返し系や回転系の基本的な技をすることができる。	①技のポイントを知り、技ができるようになるための運動の仕方を工夫している。 ②自分の能力に合った課題をもち、技ができるようになるための運動の仕方を工夫している。 ③友達の課題に気付き、技ができるように助言している。	①技ができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 ③場や器械・器具の安全を確かめようとしている。

協働的な学びの場の工夫

- 技のポイントを明示する。
 - ・一時間毎に、児童とともに見付けたコツを掲示し、話合いや、練習の場を選ばせる際の手立てとする。
 - ・自己の能力に適した繰り返し系（開脚跳びなど）や回転系（台上前転など）の基本的な技をする際の着手、頭や腰の位置や動きなど体の部位を焦点化したカードを見せる。自分ではその技ができなくても、カードを見ればアドバイスできるようにする。
- 関わり合い推進させる学習カードの活用。
 - ・「自己の課題に気付く」、「自己の課題を解決する」「友達にアドバイスする」「友達の良いところを見付ける」等に、見取るべき技のポイントを設定し、児童相互の関わり合いの必然性をもたせる。
 - ・自分の課題の解決と、友達が課題を解決することに楽しみをもたせる仕組を用意する。
- 自分の課題に対して効果的な練習のできる場の設定。
 - ・児童それぞれの課題に即した練習の場を設定する。例えば、高さや堅さに恐怖心のある児童には、ソフトマットや低くした箱の場、手の付き方が上手いかない児童には、手の置く位置の分かる場、発展技に挑戦する児童には、高低差を付けた場など、その時間、その児童のニーズに合わせた場を選択させる。

指導と評価の計画

	時 数	1	2	3	4 (本時)
活動の流れ	0	1 学習のめあての確認 ・学習の見通しをもつ ・準備,約束の確認 ・ルールの確認 ・グループ決め ・単元の流れ ・準備片付け,場の安全について確認	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り 2 チャレンジタイム ・技に挑戦する。 3 学習のめあての確認	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り 2 チャレンジタイム ・技に挑戦する。 3 学習のめあての確認	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り 2 チャレンジタイム ・技に挑戦する。 3 学習のめあての確認
	1 0				
	2 0	2 技を試す ・開脚跳び ・大きな開脚跳び ・台上前転 ・ ・閉脚跳び ・首はね跳び	開脚跳びに大切なことについて考え,練習することができる。	台上前転のこつについて考え,練習することができる。	大きな台上前転に大切なことについて考え,練習することができる。
	3 0		4 技を試し,自分達の課題を見付ける ・開脚跳びの技ポイントを確認する。 ・友達の技や,学習カードのポイントから自分の課題が何か考える。	4 技を試し,自分達の課題を見付ける ・開脚跳びの技ポイントを確認する。 ・友達の技や,学習カードのポイントから自分の課題が何か考える。	4 技を試し,自分達の課題を見付ける ・開脚跳びの技ポイントを確認する。 ・友達の技や,学習カードのポイントから自分の課題が何か考える。
	4 0	技を組み合わせて,クマリンピックを成功させるために,何が必要か考え,練習していくことができる。	5 課題に合った練習をする ・自分の課題に合った場を選んだり,友達にアドバイスを送ったりする。	5 課題に合った練習をする ・自分の課題に合った場を選んだり,友達にアドバイスを送ったりする。	5 課題に合った練習をする ・自分の課題に合った場を選んだり,友達にアドバイスを送ったりする。
4 5	まとめ・学習の振り返り わ…わかったこと が…がんばったこと と…ともだちのよいところ も…もっとがんばりたいこと 片付け ・早く,安全に,みんなで行う				
評価	知・技				
	思・判・表		観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード
	態	観察			

時 数		5	6	7	8
活動の流れ	0	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り	1 準備運動・慣れの運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り
	10	チャレンジタイム ・技に挑戦する。 3 学習のめあての確認	2 チャレンジタイム ・技に挑戦する。 3 学習のめあての確認	2 チャレンジタイム ・技に挑戦する。 3 学習のめあての確認	2 学習のめあて
	20	技のポイントを見つけ、練習することができる。	技のポイントを見つけ、練習することができる。	技を組み合わせることで表現することができる。	3 組み合わせた技を発表する ・組み合わせた技の発表会を行う。
	30	4 技を見合い、アドバイスのポイントを考える。 ・技を見合い、基本となる動きや姿勢を共有する。 ・技を見合い、加点される美しい動きや姿勢を共有する。 5 自分の課題を見付ける ・自分で技を試し、学習カード等のポイントから自分の課題が何か考える。	4 技を見合い、アドバイスのポイントを考える。 ・技を見合い、基本となる動きや姿勢を共有する。 ・技を見合い、加点される美しい動きや姿勢を共有する。 5 自分の課題を見付ける ・自分で技を試し、学習カード等のポイントから自分の課題が何か考える。	4 組み合わせた技を試す。 ・組み合わせた技を試し、課題を見つけ練習する。 5 課題に合った練習をする ・自分の課題に合った場を選んだり、友達にアドバイスを送ったりする。	4 友達の演技を評価する。 ・友達の技を、今までの学習で押さえたポイントをもとに評価する。 ・友達の演技で良かったところを積極的に評価する。 5 単元の学習の振り返りをする ・単元全体を通しての振り返りを行う。 ・今後の課題について考える。
	40	まとめ・学習の振り返り			
45	<p>わ…わかったこと が…がんばったこと と…ともだちのよいところ も…もっとがんばりたいこと 片付け ・早く、安全に、みんなで行う</p>				
評価	知・技			観察・学習カード	観察・学習カード
	思・判・表態	観察・学習カード	観察・学習カード		

本時の学習（4／8時間）

本時の目標

自分の能力に合った課題を見つけ、技ができるようになるために工夫して運動できる。

【思考・判断・表現】

- (1) 準備物 マット, 跳び箱, ソフトマット, ロイター板, 学習カード
 (2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
1 準備運動・慣れの運動。		
○準備運動 ・ウマ跳び ・ウサギ跳び ・川跳び ・ステージ上がり ・ステージ降り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備運動は、本時の運動に必要な部位を意識させながら行わせる。 ・ 技能を高めるための運動を行う。 ・ 強い着手や、勢いを付けた重心移動の感覚をつかんだりさせる。 	
2 チャレンジタイム。		
○基本的な技を試す。 ・ 繰り返し系や回転計の基本的な技に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全面に配慮し、個人の技量にあった場で練習させる。 	
3 学習のめあての確認。		
【めあて】大きな台上前転に大切なことについて考え、練習することができる。		
○めあての確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの、技のポイントも確認させる。 	
★4 技を試し、自分たちの課題を見付ける。		
<p>○台上前転を試す。</p> <p>○自分達の課題について考える。 ・ グループで技を試す中で、大きな台上前転となるポイントを交流する。</p> <p>○自分の課題を解決する方法を考える。</p> <p>○課題解決について話し合う。 ・ 交流したポイントを基に、課題解決の方法や、場について考える。</p> <p>◎自分の課題に合った練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習グループでの教え合いや上手な児童のお手本を活用する。 ・ ICTを使用し、動画や静止画でポイントを探らせる。 <p>◎今までの学習から自分の課題を取り上げ、場で練習するか決定させる。</p> <p>◎自分の課題にあった練習の場で効果的な練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題に対して、有効な練習方法を選び、アドバイスを参考に決定させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの練習の場に、図解した学習カードを掲示して、体の部位毎に注目し、助言できるようにする。 	<p>【思・判・表】 ・ 自分や友達の課題に気づき、効果的な練習の場を選んだり、助言したりすることができる。 (観察・学習カード)</p>

5 本時のまとめをする。

○学習のまとめをする。

・効果的だった練習や、アドバイスを
出させる。

【まとめ】大きな台上前転に大切なことは、手前に着手する、こしを高く上げる、足をしっかり伸ばす。

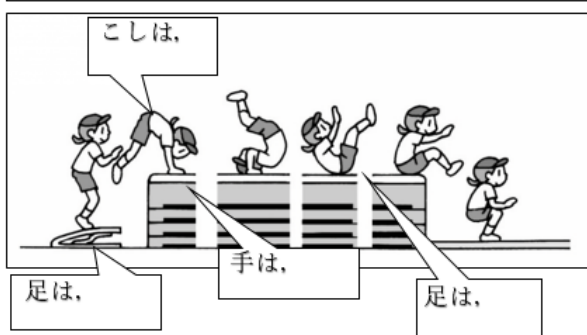
6 本時の振り返りをする。

○グループで工夫したこと、上手い
ったことを発表する。

・わ…わかったこと
が…がんばったこと
と…ともだちのよいところ
も…もっとがんばりたいこと
の観点から振り返らせる。

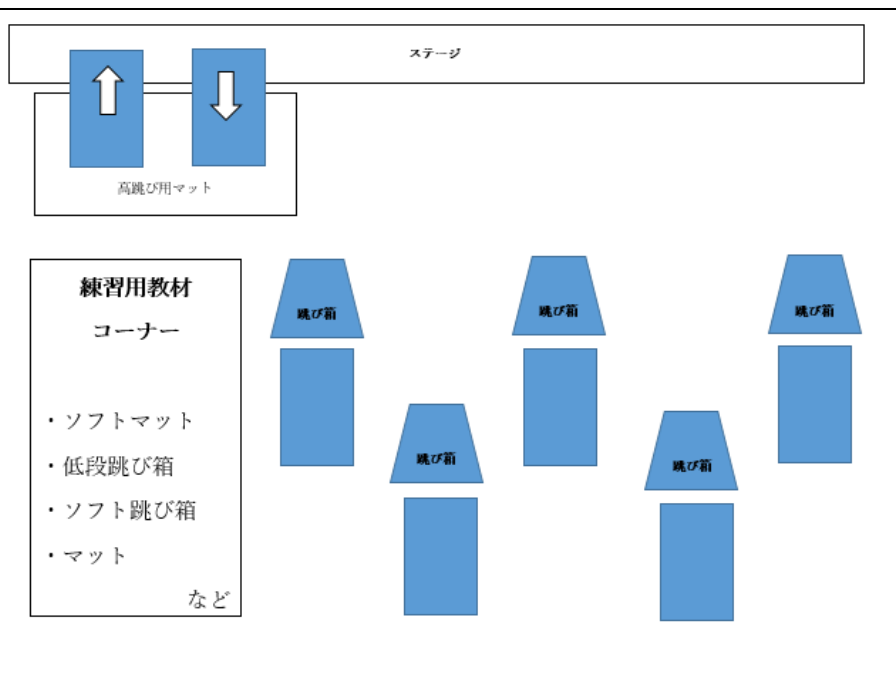
場の設定

㉓ 大きな台上前転に大切なことについて考え、練習することができる。



わ…わかったこと
が…がんばったこと
と…ともだちのよいところ
も…もっとがんばりたいこと

㉔ 大きな台上前転に大切なことは、○○○、○○○、○○○。



参考文献

・徳永 隆治 木原 成一郎 林 俊雄 (2002年)『新版 初等体育科教育の研究』学術図書出版